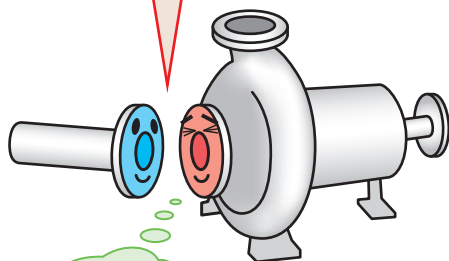


ポンプ取扱注意事項

重点5項目

<注意事項①>

ポンプはズレた配管と無理に接続しない！



無理はダメよ！

理 由

無理な配管接続はケーシング等に歪みが生じ、

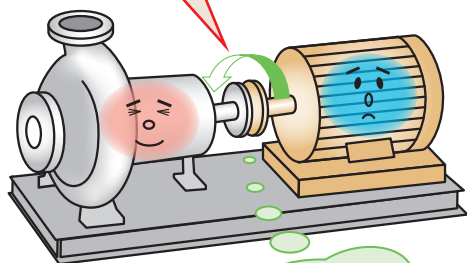
- ①ケーシングの割れ、合わせ面からの液漏れ
 - ②ポンプ内部の接触・異音発生
 - ③軸受発熱・異音発生
 - ④経年経過での芯ずれ
- 等の不具合が発生します。

対 策

- ①配管をやり直すか、吸入・吐出配管にフレキシブルなジョイントを設けて下さい。
- ②配管は適切な箇所にサポートを設け、配管荷重がポンプに掛からないようにして下さい。

<注意事項②>

芯出しが未確認のまま運転しない！



配管接続後、必ず芯出しを確認してね！

理 由

工場で芯出しを実施していますが、

- ①ベースは基礎面に沿って歪みやねじれが生じます。
 - ②配管荷重が大きいと歪みが生じます。
- 設置状況によってポンプとモータの軸芯がずれます。

対 策

配管接続後、必ず再芯出し確認を実施して下さい。

**<注意事項③>
空運転は禁止！**



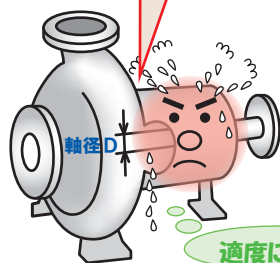
理 由

空運転すると軸封部（グランドパッキンやメカニカルシール）を傷め、焼き付きや破損に繋がります。

対 策

回転方向の確認を含め、運転前には必ず呼び水を行い、満水を確認した後に運転を実施して下さい。

**<注意事項④>
グランド漏れ量はゼロにしない！**



理 由

グランドパッキンが発熱し、焼き付きや異常摩耗に繋がります。

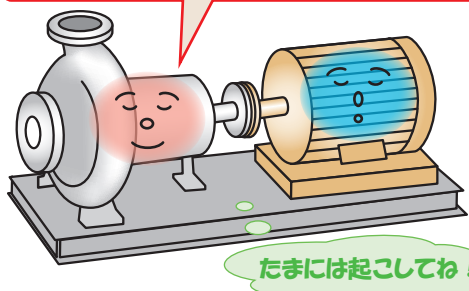
対 策

- ① 運転初期は、なじむまで糸状（多め）に漏らして下さい。 目安：約 D (cc/min)
- ② 通常運転時は、点滴滴下程度の漏れとして下さい。 目安：約 $D / 3$ (cc/min)

※ D = 軸径 (mm)

例：軸径φ60mmの場合、
初期運転時 60cc/min、通常運転時 20cc/min

**<注意事項⑤>
長期間停止状態のままにしない！**



理 由

- ① ポンプ内部の発錆で回転体が固着しやすくなります。
- ② 結露等で軸受が発錆する恐れがあります。

対 策

2週間に1回程度シャフトを手回し、あるいは管理運転を実施して下さい。